

「無限大∞」をテーマに開かれた学祭。47のバザーが並び、にぎわいを見せた＝佐賀大本庄キャンパス



佐大フケツチ

五月二十五日、本庄キャンパスで行われた第十回目の大学祭に行ってみた。正門を入るとラウショウウの並木道の両側には、サークルや部の学生たちが開いているバザーのお店が四十七並んでいる。メニューはた「焼き、から揚げ、わたあめ、焼きおにぎりなど。良いにおいが漂ってくる。

こんなに食べ物屋が多いと売れ残るのではと心配になりスタッフの一人に聞いてみた。「祭りの終わりに、投げ売りが始まるので、その時皆が買い込むので売れ残ることはありません」とのこと。「でも、そんなにいっぺんに食べきれないでしょ」と言ったらたんに気づいた。彼は若いのだ。そう思って、よくよくテントの中を見直すところのTシャツを着て料理を作ったり、声をそろえて呼び込みをしたりと実に楽しそうである。大学祭は学生たちが楽しい

と感じることが一番。今回のテーマは「無限大∞」。パンフレットには「大学祭を通じて私達の無限大の可能性を引き出したい」と書いてある。文芸部の「天長地久」八号を買った。「初めて小説を載せた。ここで読んで行ってください」と男子学生が言う。自分の体験なのか、母親のことが書いてある。なかなかおもしろい。遠くからドラムの音や歌声も聞こえている。

大学祭 露店並びにぎわう

この大学祭を中心になって運営しているのは学園祭中央実行委員会。委員長は田中亜弥さん。一年生の時からこの実行委員会に参画しているという。今年にはバザーで使う容器をリサイクル可能なものに変え「エコ学祭」を目指したとのこと。

後日行われた反省会の会場で感想を聞くと「疲れました」との返事。彼女が無限大の可能性が引き出されたと感じるのはもっと時間がたつてからかもしれない。もつこの時代に戻れない私には、うらやましさと懐かしさを感じたひと時だった。

最後に宣伝。「佐大スケッチ」のバックナンバーは佐賀大学のホームページ「理事室から」で見ることができます。

(佐賀大学理事・北島 悦子)
※次回は二十四日、予定です。